

プロフィール

1957年12月1日北海道は流水押し寄せる、オホーツク紋別に漁師の3男として生まれる。

中学生時代から非行に走り、中学3年の時、大きな事件を起こし5年間の保護観察処分を受ける。

22歳でヤクザの世界に足を入れる。

飲んで暴行を繰り返し「**五条通りのケンカ屋**」として悪名を馳せる。たった一回の覚醒剤が、悪魔の薬となって止められなくなってしまふ。被害妄想と錯乱の中、生きることが出来なくて三度の自殺未遂。10年間のヤクザ生活の中で、気が付けば生き方がわからなくて、死に場所を探していた。どん底の生活の中で一人のクリスチャン女性から聖書をプレゼントされる。そのことがきっかけで教会に通うようになる。



所属している組の親分と教会に行き、ヤクザを止める許可をもらう。

1990年4月5日ヤクザを止めて新しい道へと導かれる。

1990年6月3日洗礼を受ける

1992年 祈りが聞かれ親分が組を解散、父がその年クリスマスに70歳で洗礼を受ける。

1997年1月12日聖書をくれた女性と結婚。

2003年 ナオス宣教神学校卒

2006年 スモール・ストーン・ミニストリー立ち上げ

2010年 カーネル神学校卒 牧師按手

現在、教会の働きのほか、日本全国や海外に行き夫婦でイエス・キリストを伝えています。また刑務所、少年院、麻薬患者収容施設、学校で薬物防止、自殺防止を呼びかけて歩んでいます。

人吉少年院、大分少年院、福岡少年院、宮崎刑務所、網走刑務所、山口刑務所、釧路刑務所、麻薬患者収容施設、ホームレス・更生施設、老人ホーム、診療内科病院、山形県酒田市麻薬撲滅運動大会 他

明治学院大学、上智大学、学芸大学、中央大学、早稲田大学、東京大学、一ツ橋大学、青山学院大学、明治大学、北星余市高校、弘前東奥義塾、前橋高校生会、宮城学院、西南高等専修学校明治学院高校、ICU、聖望学園、北陸学園、日章学園、福岡女学院、国際文化学園、茨城県北浦三育中学校、名古屋大学、南山大学、広島女学院、仙台 PTA、熊本県人吉市立第一中学校、旭川東栄高校、紋別市立潮見中学校、札幌柏陵高校、砂川高校、千歳北陽高校、沙留中学校、海外にあるインターナショナルスクール他。



E-mail inouekaoru777@yahoo.co.jp

人生を変えた聖書の言葉

マタイ福音書5章30節

もしあなたの右の手が罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に落ち込まない方が、あなたにとって益である。

人生では多くの出会いがあり、その出会いの中で影響されることがいかに多いことか。私の家庭はとても貧乏で、母親は心臓が弱くいつも入退院を繰り返していました。小学校の運動会の時も家で横になっている母親。私はそんな母親を元気つきたいと一生懸命走って赤いリボンや、青いリボンを胸に付けて「母さん1等とったよ」と言って話しかけます。「母は頑張ったね」と笑顔で答えてくれました。何で家は貧乏なんだろう。母さんは心臓が弱くて寝ていることが多い。お金があれば幸せになれる。いつの間にかお金に執着していくようになり、そのころから盗むようになりました。

中学3年の時、友達三人と泥棒をして、二人は少年院に入りました。私は2回の裁判で執行猶予5年を言い渡されました。高校進学も無理になり15歳で埼玉県に就職しました。

結婚生活と別れ

隣の会社にいた子と18歳で結婚しました。初めの内は真面目にやっていたましたが、段々と仕事をしなくなりました。

20歳の時不況で北海道に帰りました。そこで暴走族を作ってほとんど家には帰りませんでした。妻は北海道には誰も身寄りがなく頼るのは私だけです。

私はたまに帰ると暴力をふるったりして21歳の時別れました。

ヤクザノ世界に

人生は1回しかない。真面目に暮らしても不真面目に暮らしても、どうせ死ぬんだったら面白おかしく過ごせばいい。お金があれば幸せになれると思い、札幌に行きました。そこでヤクザの方に出会いました。どこに行ってもその人に会います。いつも「家の組に来ないか」と誘われます。私はヤクザは好きではありませんでした。田舎で暴走族をしていた時も良くスカウトを受けました。そのヤクザの方と会うたびに断ることが出来なくなり、親分さんの家に行きました。私は初めて会う親分さんに言いました。

「もし自分がヤクザをやるなら、親兄弟を捨ててきます。」その時親分さんが言いました。「お前帰れ」「えっどうしてですか」「お前はそんな考えでヤクザをやりたいのか」「自分の親兄弟を大事にできない奴が何で俺を大事にできるのか」

その言葉を聞いたときに私は男が男に惚れる。この親分だったら一生着いていけると思いヤクザの道に入りました。

ヤクザの世界は自分の顔を売る世界です。色々な所に挨拶に回ります。その内段々と顔が知られるようになりました。

兄貴との関係

私をヤクザにひっぱった兄貴はいつも覚せい剤をしていました。

私は絶対あんな風にはなりたくない。なぜなら覚せい剤をやっている人は猜疑心が強く親分の言うことも聞かないし、だらしないのです。

ヤクザをやって2年位した頃、兄貴が言いました。「お前ヤクザやってるんだらう。一度くらい薬をやってみろ。そうしたら俺の気持ちができるから」私はじゃあ一回だけですと言って薬に手を付けました。

麻薬は悪魔の薬です。一回が二回三回と止められない薬になっていきました。

気が付いたら体も心もボロボロになっていました。

覚せい剤の恐怖

一緒に住んでいた女性が「お願いだから薬を止めて」と何度も言いましたが、彼女が仕事に行くと、また薬を打ち続けています。

寝ている時も怖くてしょうがない。誰か捕まえに来る。誰かが殺しに来ると幻覚幻聴が襲ってきます。寝ている時も刀を手にして離すことができません。

殺される前に殺してやれ、捕まる前に逃げてやる。

天井でミシッと音がするとそっと起きて天井を刀で突いていました。

彼女は怖くて震えて居ます。その彼女に向かってなんか俺に隠していることはないのか、言わないと殺すぞと言います。誰も信用できなくなっていました。

彼女も恐ろしさのあまり出て行きました。

何でこんなことになったのか、思いをいだいてヤクザの世界に入ったのに。

心の中で誰か助けてくださいと言っても誰も助けてはくれなかった。

みんな私から離れていきました。

自殺未遂

色々な声が響いてきます。お前死んだ方がいいぞ。自分の兄弟分が腹を切って死んだのですが、その兄弟の声も響いてきます。

「井上こっち来い。こっちの世界はいいぞ。」いつの間にかその声と会話していました。「お前の世界そんなにいいのか、俺も行くから待ってろ。」

久しぶりに、ススキノに出て、世話になった店を回り、ナイフを持って山に車で行きました。「今日俺は死ぬんだ。」小さい頃からの事を色々思い出しながらナイフで腕を切っていきました。ドンドン流れる血を見ている時体の中でバシッと音がなった瞬間、意識がなくなりました。それから何時間たったのかわかりませんが、車のクラクションの音で目が覚めました。私の車が山道をふさいでいたのです。私は起き上がりましたが、車の中は血だらけでした。

こんな姿を見られたら捕まるかもしれない。私は車を運転して家に戻りました。

生き方がわからない。誰か助けてください。心の中は叫んでいます。

どうやって生きていいのか本当にわからないのです。恥ずかしい話ですが三度の自殺を試みていました。でも死ぬことはできませんでした。不思議なように助けられました。

ヤクザ生活10年間ですが、気が付いたら死に場所を探していました。
何にもかっこいいもんじゃありません。

クリスチャンとの出会い

10年たった頃、知り合いの工務店の社長が、仕事が忙しくて手伝ってくれないかと言われたので、どうせ暇だから良いよと言いました。

小樽の歯医者さんの改装工事でした。

そこのお嬢さんがクリスチャンでした。

彼女と親しくなっていました、仕事も一か月で終わり彼女とも接点がなくなりました。その後大工さんが小樽の大きなお祭りに彼女が案内してくれると言っていると聞き小樽に出かけました。1989年7月30日の事です。

花火大会が終わって帰ろうとしたら、彼女が「井上さん。ジャンバーを無くしてすみません。これお詫びのしるしです」と言って小さな包み紙をくれました。

「これなんですか」と聞くと「聖書です」と答えます。

俺ジャンバーだよ何で俺に聖書なんかくれるのと思いました。

その夜にこの小さな包み紙が気になってしょうがありません。

せっかくくれたから読んでみましょうと開いたら、折目がついて、汚れた聖書です。なんだ人に物をくれていながらこの汚い聖書。でも読み始めていきました。マタイの5章に来たとき今日の御言葉にある聖書に出会いました。

御言葉との出会い

マタイ福音書5章30節

もしあなたの右の手が罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に落ち込まない方が、あなたにとって益である。

その瞬間自分の手を見ました。この手で多くのものを盗んでいる。暴力を振るっている。そしてこの右の手で今は薬を打っている。

その時不思議なように涙が出てきました。そして小さい頃からの一つ一つの罪が示され告白していきました。何時間続いたかわかりませんが、その涙と一緒に汚いものが流れて行き、今までがんじがらめに私を縛っていた鎖が解けたように思いました。それから私は夢中に聖書を読んでいきました。

多くの人は私から離れて行ったけど。イエス様は私のところに来てくださった。

そして3つの事を語ってくださいました。「お前を愛している。お前を守る。お前共にいる」小さい聖書ですからどこにでも持っていけます。私はヤクザの本部事務所でも聖書を開いて読んでいました。若い奴が来て、「本部長何読んでるんですか?」「聖書だよ」「えっ聖書ですか」「中々いいこと書いてあるぞ、お前も読むか?」「自分はいいです」聖書を一か月で読み終わりました。そして聖書をくれた彼女に電話しました。「聖書を読みました」彼女も驚いていました。ヤクザでも聖書を読むんだ。

色々な聖書の質問をしていきました。彼女は答えてくださり、最後には必ず、教会に来ませんか誘ってくれます。でも教会はキレイな人たちが行く場所で、俺みたいに汚い者が行く場所じゃないと言って断りました。でも彼女は電話をする度に教会に来ませんか誘ってくれました。

最後に彼女はこう言いました。「井上さん、私の教会は若くて綺麗な独身の女性がたくさんいますよ」そこ

まで誘うなら行きましょうと言って初めて教会に行きました。

初めての教会

土曜の賛美の集会です。終わった後にみんながヤクザと知っていながら笑顔で迎えてくれました。私は本当にうれしかった。多くの人が私から離れて行ったのに教会の方々は笑顔で迎えてくれました。土曜日の集会から日曜礼拝、そして水曜日の勉強会にも顔を出していきました。札幌から約一時間半の距離が苦になりませんでした。教会に通うようになってから心の中が変わってきました。

いいものが入ると外側に現れてきます。そんな時親分に言われました。

「井上、ちょっと来い。」「ハイ」「なんだ、その顔、なんだ、その言葉使いもう少しヤクザらしくしろ」教会に通うようになってからいつの間にか死にたいと言う気持ちがなくなっていました。そして薬からも解放されていきました。

親分と教会へ

1989年12月1日私の誕生日の夜に一人で部屋でお祈りしました。

イエス様と出会い、何か聖になりたい。何か契約をたてたい。

私はずっと口ヒゲを伸ばしていました。それは自分の兄弟分と夜中の3時頃まで酒を飲んでいました。別れ際に兄弟分が言いました。井上、この組、日本一の組にしような。親分ヒゲ伸ばしてるから、俺たちも伸ばそう。その約束をして別れた後に彼は女性の事が原因で腹を刺しました。私は連絡を受けてすぐ病院に行きました。彼は「井上痛いよ。俺バカなことをしてしまった。」これが最後の言葉で、それから昏睡状態が続き、一週間後に彼は死にました。

その遺言もあったのですが、私は「石沢お前の約束だったけどこのヒゲを切る」と言ってヒゲを切りました。

次の日に聖書をくれた彼女から電話がありました。

「明日、牧師先生の教会で食事会がありますので来ませんか?」「喜んでいきます。」「親分さんは来ませんか」「親分はわかりません」「ぜひ一緒に来てください」私は親分の所に行きました。

「親分、明日牧師先生の所で食事会がありますが行きませんか?」親分は「明日の事はわからん」私は次の日の朝に親分の所に行って言いました。「親分、私が世話になっている教会一度くらい挨拶に行ってくれませんか」親分は一緒に小樽まで行ってくれました。

そして親分も初めて教会に足を踏み入れました。「これがお前の通っている教会か、教会ってなかなかいいもんだな」と言って牧師室に入りました。その頃礼拝堂では中高生が集まっていて、今日は井上さんと親分さんが来ているから気合入れて祈ろうと言って祈っていました。

親分の約束

牧師室に入った途端、親分が牧師先生に自分の過去の事を話し始めました。

小さいとき遠足に行った時、お弁当を持っていくことが出来なかった。でも隣にいた女の子がくれたあのオニギリの味が忘れられない・・・。

私は親分いったい何をしゃべっているのかと思いました。そのあとに親分が言いました。「牧師先生、私も井上の親として井上がこれから真面目にやるのだったらヤクザの世界を辞めさせま

す。よろしくお祈りします」と頭を下げました。私は驚きましたが、涙が出てきて、牧師先生の手を取ってお祈りありがとうございました。帰り道に親分に言いました。「親分、何であんな約束したんですか」「まあいいんじゃないか」と言って親分が目の奥を拭きました。親分、涙を流していたんです。自分の組では4人が死んでいます。一人は先ほど話したように腹を切って死んで、私が尊敬していた兄貴はガンで亡くなりました。若い奴は薬を打って真冬に裸で死んで、私をヤクザに誘った兄貴は結局、覚せい剤を打った後に首を吊って死にました。親分は私が自殺未遂したのを知っています。もしこのままヤクザをやっていたら、こいつも死んでしまう。生きていてほしいと思ってくれたと思います。

1989年12月は札幌でも抗争事件が多くありました。

私もヤクザで生きている以上ヤクザで死んでもいいと思いました。

でも手を挙げた喧嘩が全部守られていきました。主はあなたを守りますと言いました。本当にその言葉通り主は守ってくださいました。

年が明けて1990年4月5日、組の規約を決めていました。

一つ 親分に絶対従うべし。一つ 覚せい剤をやってはいけない。1つ……。

私はその時ところに反感を覚えました。一番最初の「親分に絶対従うべし」これは違う。私の親分はイエス様だ。ヤクザの親分に着いて行くことはできない。

親分話があります。「なんだ話してみろ」「若い奴がいる前では話せません」

親分は組の大事な規約を作っているのに若い者を帰らせました。

私はイエス様に祈りました。言葉をください。大事な話をしなくてはいけないので言葉をください。

その時親分が言いました。「お前ヤクザ辞めたいんだろ」

私は、今返事をしなかったら一生ヤクザから足を洗えないと思い、

「辞めたいです」と答えました。親分は「その約束はちゃんと覚えている。男が一回吐いた唾は飲まない」と言ってくださり、その日を境に私は親分の許可を貰いヤクザを辞めることが出来ました。

その夜親分と一緒に酒を飲みました。私は親分に言いました。

自分はヤクザを辞めますけど男を辞めたわけではありませんので、また遊びに来てもいいですか？親分はいつでも来い。教会のメンバーを連れて来てもいいですか？いつでも連れておいで、と伝えてくれました。

親分、自分は親分がヤクザを辞めることをお祈りします。五年でも一〇年でもかかってもいいからヤクザを辞められるようにお祈りします。親分は言いました。お前と違って俺はヤクザを辞めることは出来ないんだ。

新しい生活

私は札幌から小樽に行きました。教会から五分の所に部屋が与えられ、仕事も材木をかつぐ仕事ですが与えられました。そして六月三日ペンテコステの日に洗礼を受けることが出来ました。その日の朝シャワーを浴びて裸で主の前に膝まつきました。「イエス様、これが私の体、刺青があって指もない、汚い体です。今日あなたの子になれることを心から感謝します。」その時、小さな声が響いてきました。そのまのあなたを愛しています。あなたがきれいとか汚いとかそれは

わたしに関係のないことです。そのままのあなたを愛しています。

イエス様は言いました。あなたを愛しています。あなたを守ります。いつも共にいます。この三つの言葉がいつも私と共にあります。

人生の最大の出会いは誰と出会うかで決まります。私はイエス様と出会い、生まれ変わる事が出来ました。そして御言葉が私たちを教え導いてくださいます。主の御言葉は「私の足のともし火、道の光とあります。」

皆様今から20数年前までヤクザノ世界にいて薬でおかしくなって、日本刀を振り回していたものが、今は主の証人として日本のみならず、諸外国を歩いて福音を伝えるものになりました。誰がこのようなことが出来るのでしょうか。

イエスキリストこの方以外に救いはありません。

今日あなたの人生を変える主の御言葉はなんですか。

だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ全てが新しくなったのである。第二コリント第5章17節

最後にイエス様は私の祈りを聞いてくださいました。クリスチャンになってから2年後、親分は組を解散しました。その年のクリスマスに私の父親が70歳で洗礼を受けました。イエスキリストを信じなさいそうすればあなたもあなたの家族も救われます。

生きるって素晴らしい。生きるって一人じゃないよ。主と共に生きるって素晴らしい。